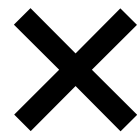
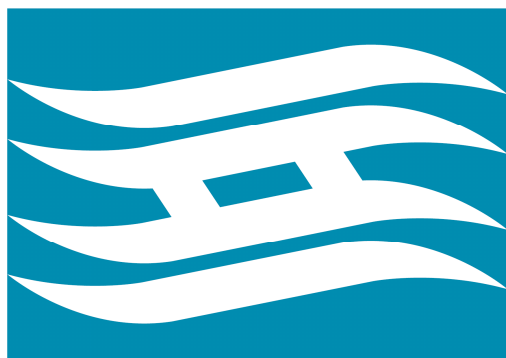


ひょうごウクライナ支援プロジェクト

～ひょうごは、ウクライナとともに～



ひょうごウクライナ支援プロジェクト

1 避難民の状況

- (1) 来県状況 **51組 106名** (神戸市、姫路市、尼崎市、芦屋市、宝塚市、川西市、淡路市、猪名川町)
(うち5名出国済)
- (2) 県営住宅提供実績 **11戸** (R4.11.22 時点)



ウクライナ避難民支援にかかる現地視察

2 ウクライナ避難民等相談窓口相談件数 (実施主体：(公財)兵庫県国際交流協会)

相談内容			計
支援依頼	支援申出	その他	486件
340	132	14	

(R4.11.28 時点)

相談例① (支援依頼)

住宅支援、生活支援、日本語教育、就労に関すること 等

相談例② (支援申出)

住宅・物資・就業機会の提供、ウクライナ語・ロシア語通訳ボランティア 等

ひょうごウクライナ支援プロジェクト

3 ふるさとひょうご寄付金「ウクライナ緊急支援プロジェクト」

寄付状況 4,159件 69,089千円 (R4.11.28時点)

4 募金箱の設置

募金総額 900,045円 (設置期間 R4.3.10 ~ 5.31)

5 ひょうごウクライナ避難民生活支援金 (実施主体：(公財)兵庫県国際交流協会)

支援内容		実績 (R4.11.21 時点)
生活準備のための一時滞在支援	最大200千円/世帯	1,220千円/ 8世帯
生活開始のための一時金支給	500千円/世帯	13,000千円/26世帯
生活費(食費含む)	最大1,440千円/世帯	9,840千円/27世帯
合計	最大2,140千円/世帯	24,060千円/28世帯

ひょうごウクライナ支援プロジェクト

6 ウクライナ避難民への日常生活コーディネーターの設置

内容	支援実績 (R4.10.31時点)
・(特非)多言語センターFACILに配置したコーディネーターが、各種支援機関・市町等と調整しながら、避難民の暮らしへの日常支援を実施(通訳含む)	56件
・避難民に対して母国語等による電話での生活相談を実施(ウクライナ語、ロシア語)	38件

7 ひょうごウクライナ避難民支援 公民連携プラットフォーム

(実施主体：(公財)兵庫県国際交流協会)

○登録状況 **49法人・団体** (R4.11.21 時点)

活用中の物資等

AI翻訳機、生活用品、食料品、清涼飲料水、栄養補助食品、住居、電子マネー機能付きカード(10万円チャージ分/世帯)、QUOカード(5千円/人)、家電製品、就業機会の提供 等



AI翻訳機の提供

8 JICA関西センター宿泊施設の無償提供

○締結日 **令和4年7月14日(木)**

※JICAが同内容の覚書を締結するのは兵庫県が初めて

ひょうごウクライナ支援プロジェクト

9 日本語教育等

- (1) (公財)兵庫県国際交流協会が、文化庁の補助を活用し、避難民対象の日本語講座や支援者向けの研修会をオンラインで実施。

対象者	内容	実施時期	受講実績
ウクライナ避難民	・地域での継続的な支援を視野に入れ、その前段階として地域の方との交流に必要な入門期の日本語を学ぶ	8/22(月)～	2講座 7人
日本語学習支援者(市町国際交流協会、ボランティア等、避難民への日本語教育支援に関心のある者)等	・県内の受け入れ状況、支援体制 ・難民的背景を持つ人々への支援から学ぶ ①心理的なケアや支援に際しての留意点 ②日本語教育の実践例 等	3回開催 ①6/16(木) ②7/13(水) ③1/12(木)	①59人 ②59人

- (2) 公共職業能力開発施設が日本語教育を含む職業訓練を実施。

実施機関	内容	実施時期	受講実績
県立神戸高等技術専門学院 (神戸YWCAに委託)	・日本で働くために必要な日本語、コミュニケーション能力、パソコンスキル、ビジネスマナーなどを身につける(日本語能力試験N4取得を目指す) ・月10万円の生活支援給付金の支給あり	9/16(金)～ 12/15(木) [3ヶ月]	4名

ひょうごウクライナ支援プロジェクト

10 こころのケア

県こころのケアセンターが、市町担当者等へオンデマンドで相談・助言に当たるほか、既存研修を活用し避難民を支援する専門職へオンラインで研修を実施。

研修名	開催日	受講実績
「被災者や被害者をささえるために ーサイコロジカル・ファーストエイド(PFA)を学ぶー」	8月16日(火)～17日(水)	県・4市・1団体
「被害者や被災者の中長期の回復を支えるこころのケア ーサイコロジカル・リカバリー・スキル(SPR)ー」	8月30日(火)～31日(水)	

11 情報共有・連携協力体制等

(1) ウクライナ避難民支援等庁内プロジェクトチーム

令和4年4月以降、6回実施。

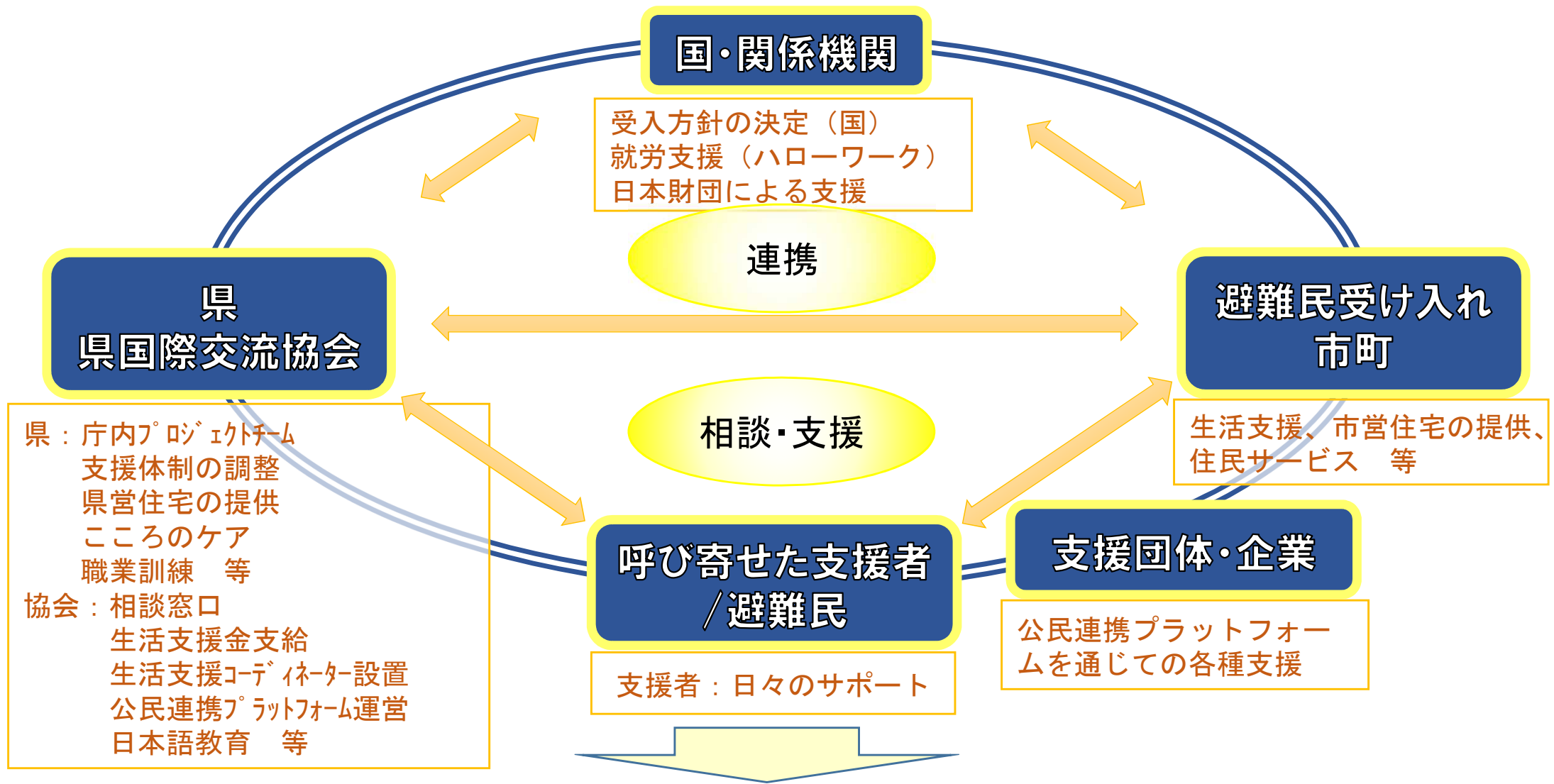
主な議題は、入国時の課題、支援の流れ、就労、日本語教育、心のケア、長期的課題 等

(2) ウクライナ避難民等支援連絡会議

令和4年3月以降、6回実施。

主な議題は、入国時の課題、支援の流れ、件の支援施策および実施状況、国等の情報提供、避難民受入市町の状況と課題 等

ひょうごウクライナ支援プロジェクト



公民連携で、生活・住居・医療・就労・就学等の支援を実施

<今後の課題>

個人の状況に応じた支援など、長期化・広域化・個別化への対応が必要。

- ①国・県・市町・支援機関等による、情報共有と連携協力の継続
(きめ細かい支援、支援漏れ・支援格差を防止)
- ②長期化を視野に、日本語教育、就労支援、コミュニティ形成等を支援

- ・ 中長期的な県内居住に向けてウクライナ人コミュニティの形成が重要
- ・ 現在、支援団体の活動に在住ウクライナ人がボランティアで参加するなど、自然発生的に徐々にコミュニティ形成が広がっている
- ・ 県としても、ひょうごウクライナ支援プロジェクトの中で交流機会の提供等、市町の取組み支援等により側面的支援を推進